

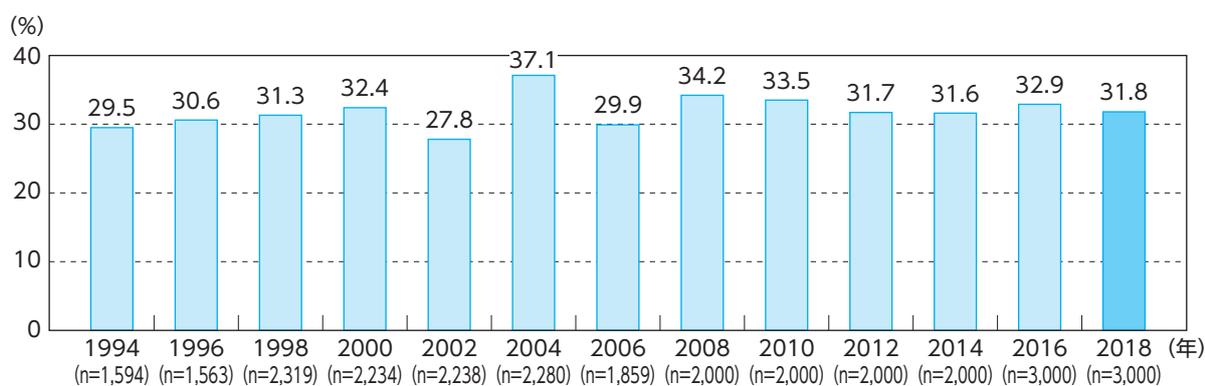
## 4 スポーツ観戦

### 4-1 直接スポーツ観戦率

過去1年間にスタジアムや体育館等で直接スポーツを観戦した者の割合を図4-1に示した。2018年の直接スポーツ観戦率は31.8%であり、前回2016年の32.9%から1.1ポイント減少した。2008年以降の直近10年間

の直接観戦率は30%前半で推移している。今回の結果から、過去1年間のわが国における直接スポーツ観戦人口は3,371万人と推計された。

図4-2は性別にみた直接観戦率である。男性は36.6%、女性は27.1%で、男性が女性を9.5ポイント上回っている。



【図4-1】直接スポーツ観戦率の年次推移

注) 2014年までは20歳以上、2016年以降は18歳以上を調査対象としている。

資料: 笹川スポーツ財団「スポーツライフに関する調査」2018

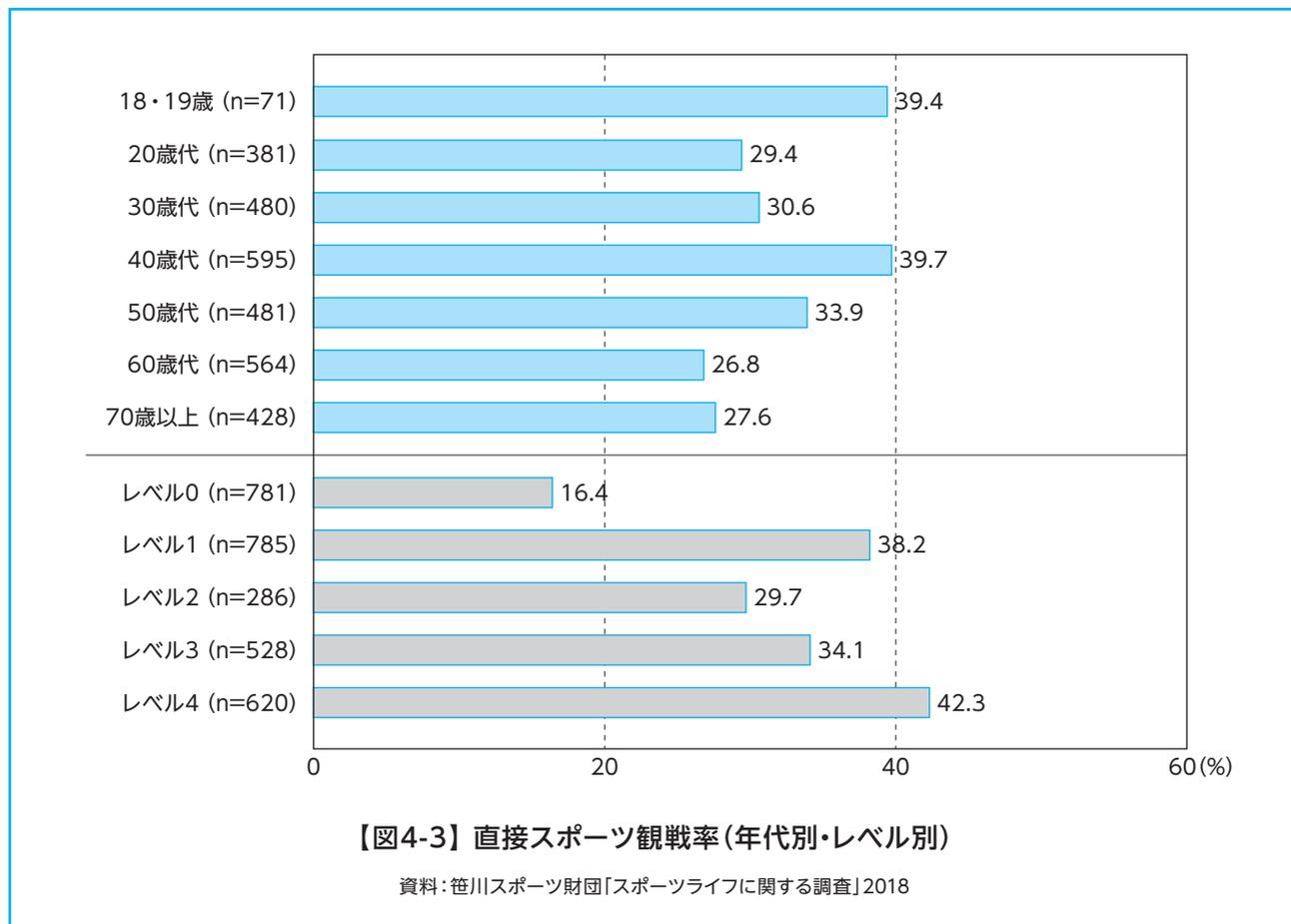


【図4-2】直接スポーツ観戦率(全体・性別)

資料: 笹川スポーツ財団「スポーツライフに関する調査」2018

図4-3には、年代別、運動・スポーツ実施レベル別の直接観戦率を示した。年代別では18・19歳39.4%と40歳代39.7%の直接観戦率が約4割と高く、次いで50歳代33.9%、30歳代30.6%、20歳代29.4%、70歳以上27.6%、60歳代26.8%であった。

運動・スポーツ実施レベル別にみると、最も高い直接観戦率は「レベル4」の42.3%であった。次いで「レベル1」38.2%、「レベル3」34.1%、「レベル2」29.7%となり、過去1年間にまったく運動・スポーツを行わなかった「レベル0」の直接観戦率は16.4%と最も低かった。



## COMMENTS

- 私はスポーツが得意ではありませんが、オリンピック、サッカーワールドカップ、バレーボール世界大会、プロ野球などは何時でもみます。選手をみていると「ファイト」をもらえます。(74歳 男性 技能的・労務的職業)
- プロのスポーツ選手の生き方から学ぶことが多く、子どもたちにもスポーツをしてほしいと思う。(35歳 女性 専業主婦・主夫)
- スポーツ観戦がもっと手ごろで身近なものになればいいと思う。(45歳 男性 管理的職業)
- スポーツ観戦・応援に行くとき一体感を感じます。それが、地域に広まっていくことが、スポーツの発展に繋がる第一歩だと思います。どの年代の人が来ても楽しめる施設や環境、イベントのほか、一日をスポーツの観戦・応援以外でも充実させていくことが理想的です。(67歳 女性 パートタイム・アルバイト)

資料：笹川スポーツ財団「スポーツライフに関する調査」2018

## 4-2 直接スポーツ観戦種目

表4-1は種目別の直接スポーツ観戦状況である。まず、回答者全体において観戦率が高かった上位10種目を特定し、18歳以上人口を乗じて推計観戦人口を算出した。観戦率は「プロ野球(NPB)」が13.7%と最も高く、推計観戦人口は1,452万人である。2位から5位には「高校野球」5.8%、「Jリーグ(J1、J2、J3)」5.5%、「マラソン・駅伝」3.8%、「サッカー(高校、大学、JFLなど)」1.9%が入り、2016年と同じ順位であった。また、上位10種目の中には野球、サッカー、バスケットボールの観戦種目が複数入る。

次に、各種目の観戦者における観戦回数の平均値を算出した後に推計観戦人口を乗じ、延べ観戦者数である推計動員数を算出した。観戦回数が最も多いのは「サッカー(高校、大学、JFLなど)」の7.14回で、次いで「バスケットボール(高校、大学、WJBLなど)」が3.38回、「アマチュア野球(大学、社会人など)」が3.37回である。推計動員数は「プロ野球(NPB)」が3,035万人と最も多く、「高校野球」1,863万人、「Jリーグ(J1、J2、J3)」1,644万人と続く。

表4-2には、直接スポーツ観戦率の上位5種目を性別に示した。「プロ野球(NPB)」が男性16.6%、女性10.9%と最も高く、男性が女性よりも5.7ポイント高い。

【表4-1】種目別直接スポーツ観戦状況(複数回答)

順位	観戦種目	2018年(n=3,000)			2016年(n=3,000)				
		観戦率(%)	① 推計観戦人口 (万人)	② 観戦回数 (回/年)	③ 推計動員数 (①×②) (万人)	④ 観戦率(%)	⑤ 推計観戦人口 (万人)	⑥ 観戦回数 (回/年)	⑦ 推計動員数 (④×⑤) (万人)
1	プロ野球(NPB)	13.7	1,452	2.09	3,035	15.6	1,658	2.33	3,863
2	高校野球	5.8	615	3.03	1,863	5.5	585	3.21	1,878
3	Jリーグ(J1、J2、J3)	5.5	583	2.82	1,644	5.3	563	3.13	1,762
4	マラソン・駅伝	3.8	403	1.34	540	3.9	415	1.42	589
5	サッカー(高校、大学、JFLなど)	1.9	201	7.14	1,435	2.4	255	3.20	816
6	プロバスケットボール(Bリーグ)	1.7	180	1.65	297	0.8	85	2.36	201
7	アマチュア野球(大学、社会人など)	1.6	170	3.37	573	1.5	159	2.37	377
8	大相撲	1.5	159	1.36	216	1.2	128	1.15	147
	バスケットボール(高校、大学、WJBLなど)	1.5	159	3.38	537	1.4	149	3.98	593
10	プロゴルフ	1.2	127	1.28	163	1.3	138	1.80	248

注1) 2018年の推計観戦人口:18歳以上人口の106,011,547人(2017年1月1日時点の住民基本台帳人口)に観戦率を乗じて算出。

注2) 2016年の推計観戦人口:18歳以上人口の106,300,916人(2015年1月1日時点の住民基本台帳人口)に観戦率を乗じて算出。

資料: 笹川スポーツ財団「スポーツライフに関する調査」2018

【表4-2】種目別直接スポーツ観戦率(性別:複数回答)

男性(n=1,491)			女性(n=1,509)		
順位	観戦種目	観戦率(%)	順位	観戦種目	観戦率(%)
1	プロ野球(NPB)	16.6	1	プロ野球(NPB)	10.9
2	高校野球	7.7	2	Jリーグ(J1、J2、J3)	4.4
3	Jリーグ(J1、J2、J3)	6.5	3	高校野球	3.9
4	マラソン・駅伝	4.2	4	マラソン・駅伝	3.3
5	アマチュア野球(大学、社会人など)	2.2	5	サッカー(高校、大学、JFLなど)	1.7
				バレーボール(高校、大学、Vリーグなど)	1.7

資料: 笹川スポーツ財団「スポーツライフに関する調査」2018

「高校野球」は男性の2位(7.7%)と女性の3位(3.9%)に、「Jリーグ(J1、J2、J3)」は男性の3位(6.5%)と女性の2位(4.4%)に入る。4位は男女ともに「マラソン・駅伝」(男性4.2%、女性3.3%)であり、5位は男性が「アマチュア野球(大学、社会人など)」2.2%、女性が同率で「サッカー(高校、大学、JFLなど)」「バレーボール(高校、大学、Vリーグなど)」1.7%であった。

表4-3に示す年代別の直接スポーツ観戦率上位5種目をみると、18・19歳は「高校野球」12.7%が最も高く、次いで「プロ野球(NPB)」9.9%が2位、「サッカー(高校、大学、JFLなど)」Jリーグ(J1、J2、J3)」7.0%が同率で

3位である。20歳代以上はすべての年代で「プロ野球(NPB)」の観戦率が最も高い。2位と3位には、20歳代から50歳代までは「Jリーグ(J1、J2、J3)」と「高校野球」が、60歳代以上では「高校野球」と「マラソン・駅伝」が入る。また、50歳代以上で「大相撲」が、60歳代以上で「プロゴルフ」が上位5種目に入るなどの特徴がある。

表4-4には、今後、直接スポーツ観戦を希望する種目を示した。「プロ野球(NPB)」が26.3%と最も高く、「サッカー日本代表試合(五輪代表含む)」と「フィギュアスケート」が同率で16.0%であった。また、直接観戦率では上位10種目に入らなかった「メジャーリーグ(アメリカ大リー

【表4-3】 種目別直接スポーツ観戦率(年代別:複数回答)

18・19歳 (n=71)			20歳代 (n=381)			30歳代 (n=480)			40歳代 (n=595)		
順位	観戦種目	観戦率 (%)	順位	観戦種目	観戦率 (%)	順位	観戦種目	観戦率 (%)	順位	観戦種目	観戦率 (%)
1	高校野球	12.7	1	プロ野球(NPB)	16.5	1	プロ野球(NPB)	14.8	1	プロ野球(NPB)	14.1
2	プロ野球(NPB)	9.9	2	Jリーグ(J1、J2、J3)	6.6	2	Jリーグ(J1、J2、J3)	7.7	2	高校野球	9.1
3	サッカー(高校、大学、JFLなど)	7.0	3	高校野球	5.2	3	高校野球	3.3	3	Jリーグ(J1、J2、J3)	6.7
	Jリーグ(J1、J2、J3)	7.0	4	アマチュア野球(大学、社会人など)	3.4	4	プロバスケットボール(Bリーグ)	3.1	4	マラソン・駅伝	5.2
5	バスケットボール(高校、大学、WJBLなど)	4.2	5	サッカー(高校、大学、JFLなど)	2.6	5	マラソン・駅伝	1.9	5	サッカー(高校、大学、JFLなど)	3.5

50歳代 (n=481)			60歳代 (n=564)			70歳以上 (n=428)		
順位	観戦種目	観戦率 (%)	順位	観戦種目	観戦率 (%)	順位	観戦種目	観戦率 (%)
1	プロ野球(NPB)	14.3	1	プロ野球(NPB)	11.0	1	プロ野球(NPB)	12.9
2	Jリーグ(J1、J2、J3)	6.4	2	マラソン・駅伝	5.0	2	高校野球	6.1
3	高校野球	4.6	3	高校野球	4.8	3	マラソン・駅伝	4.0
4	マラソン・駅伝	3.5	4	Jリーグ(J1、J2、J3)	3.0	4	大相撲	2.6
5	大相撲	2.9	5	大相撲	1.8	5	プロゴルフ	2.3
				プロゴルフ	1.8			

資料: 笹川スポーツ財団「スポーツライフに関する調査」2018

【表4-4】 種目別直接スポーツ観戦希望状況(複数回答:n=3,000)

順位	観戦種目	観戦希望率 (%)	観戦希望率 (%)		推計観戦希望人口 (万人)	推計継続観戦希望人口(リピーター) (万人)	推計新規観戦希望人口(万人)
			継続観戦希望 (リピーター)率 (%)	新規観戦希望率 (%)			
1	プロ野球(NPB)	26.3	10.2	16.1	2,788	1,081	1,707
2	サッカー日本代表試合(五輪代表含む)	16.0	0.5	15.5	1,696	53	1,643
	フィギュアスケート	16.0	0.4	15.6	1,696	42	1,654
4	高校野球	13.1	4.2	8.8	1,389	445	933
5	Jリーグ(J1、J2、J3)	11.5	4.2	7.3	1,219	445	774
6	大相撲	10.4	0.9	9.5	1,103	95	1,007
7	マラソン・駅伝	7.1	2.4	4.8	753	254	509
8	メジャーリーグ(アメリカ大リーグ)	6.8	0.0	6.8	721	0	721
9	海外プロサッカー(欧州、南米など)	6.6	0.1	6.5	700	11	689
	プロテニス	6.6	0.3	6.3	700	32	668

注) 推計観戦希望人口: 18歳以上人口の106,011,547人(2017年1月1日時点の住民基本台帳人口)に観戦希望率を乗じて算出。

資料: 笹川スポーツ財団「スポーツライフに関する調査」2018

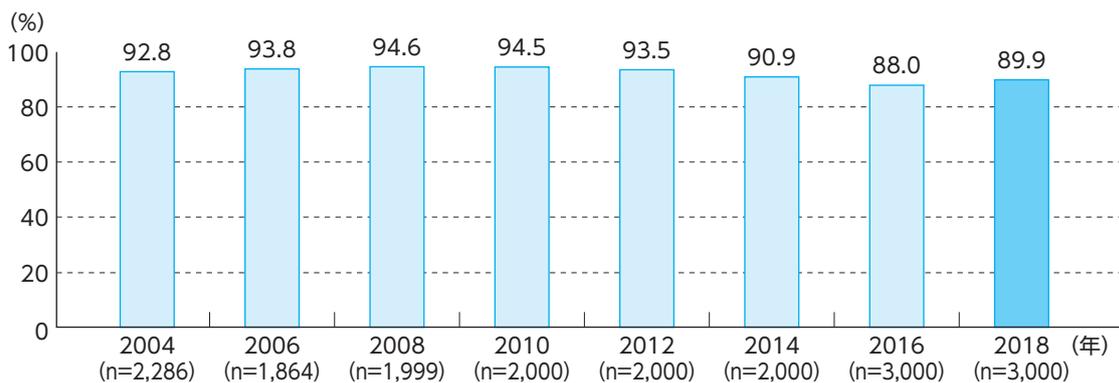
グ)6.8%、「海外プロサッカー(欧州、南米など)」6.6%、「プロテニス」6.6%が直接観戦希望率では上位に入った。

今後の直接スポーツ観戦希望率が高い上位10種目を「継続観戦希望(リピーター)率」と「新規観戦希望率」に分けて算出した。直接観戦希望率が最も高い「プロ野球(NPB)」は、継続観戦希望(リピーター)率10.2%、新規観戦希望率16.1%と、どちらの割合も他の観戦種目と比べて高い。直接観戦希望率2位の「サッカー日本代表試合(五輪代表含む)」「フィギュアスケート」は、継続観戦希望(リピーター)率が0.5%および0.4%に対して新規観戦希望率が15.5%および15.6%であり、新規観戦希望者の割合が高い。

### 4-3 テレビによるスポーツ観戦率

過去1年間のテレビによるスポーツ観戦状況の推移を図4-4に示した。2018年のテレビスポーツ観戦率は、全体の89.9%であった。テレビスポーツ観戦率は、最も高かった2008年から減少が続き、2016年は調査項目に追加して以降最も低い88.0%であったが、2018年は1.9ポイント増加した。今回の結果から、過去1年間のわが国におけるテレビスポーツ観戦人口は、9,530万人と推計された。

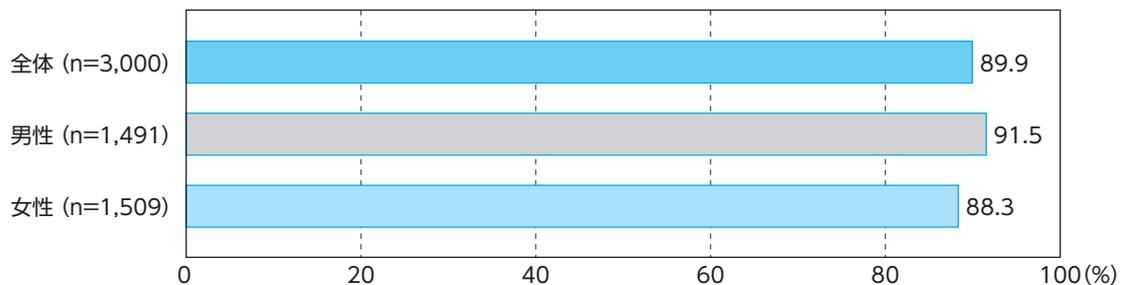
図4-5は、テレビスポーツ観戦率を性別に示している。男性は91.5%、女性は88.3%であり、男性が女性を3.2ポイント上回る。



【図4-4】テレビによるスポーツ観戦率の年次推移

注) 2014年までは20歳以上、2016年以降は18歳以上を調査対象としている。

資料: 笹川スポーツ財団「スポーツライフに関する調査」2018

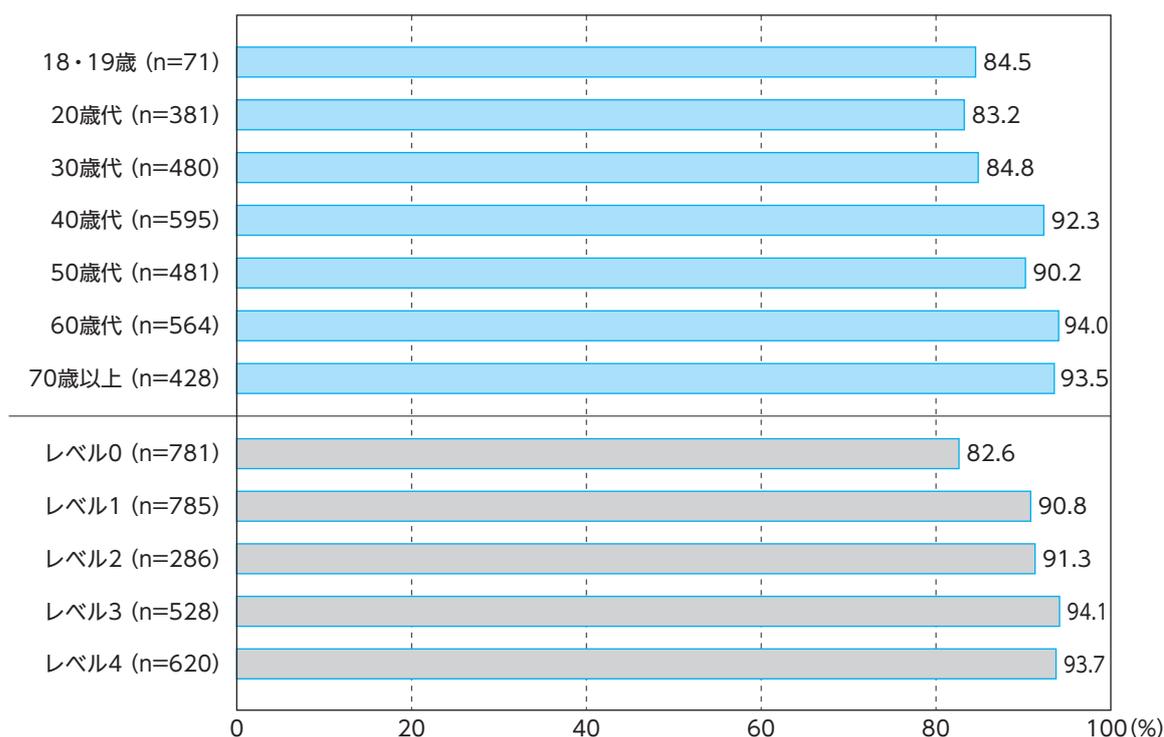


【図4-5】テレビによるスポーツ観戦率(全体・性別)

資料: 笹川スポーツ財団「スポーツライフに関する調査」2018

図4-6に、年代別、運動・スポーツ実施レベル別のテレビスポーツ観戦率を示した。年代別にみると、18・19歳84.5%、20歳代83.2%、30歳代84.8%と、30歳代までのテレビ観戦率は8割台である。40歳代以上では、40歳代92.3%、50歳代90.2%、60歳代94.0%、70歳以上93.5%と9割台であった。テレビ観戦率は年代によって差があり、特に30歳代以下のテレビ観戦率が低い。

運動・スポーツ実施レベル別にみると、「レベル3」が94.1%と最も高い。次いで「レベル4」93.7%、「レベル2」91.3%、「レベル1」90.8%であり、過去1年間に運動・スポーツを行った者のテレビ観戦率は9割台であった。一方で、過去1年間にまったく運動・スポーツを行わなかった「レベル0」のテレビ観戦率は82.6%であり、他のレベルと比べて低かった。



【図4-6】 テレビによるスポーツ観戦率(年代別・レベル別)

資料：笹川スポーツ財団「スポーツライフに関する調査」2018

## COMMENTS

- 自分はプレーできなくても観戦することにより、同じように楽しむことができます。スポーツの素晴らしい点だと思います。(76歳 女性 専業主婦・主夫)
- 観戦も1人じゃなくて人と楽しく共感し合いながらみたいです。(50歳 女性 パートタイム・アルバイト)
- スポーツ観戦には喜怒哀楽があり、声を出すのでストレス発散にとても良いと思う。(54歳 男性 事務的職業)
- もっと障がい者スポーツをとりあげるべき。車いすバスケットボールを観戦したが、迫力があっておもしろかったです。(44歳 女性 専業主婦・主夫)

資料：笹川スポーツ財団「スポーツライフに関する調査」2018

### 4-4 テレビによるスポーツ観戦種目

表4-5に、過去1年間にテレビ観戦した上位15種目を示した。1位は「サッカー日本代表試合(五輪代表含む)」64.0%であり、2位の「プロ野球(NPB)」51.8%とは10ポイント以上の差がある。2018 FIFAワールドカップにおける日本代表試合のテレビ観戦による影響と推察される。3位以降には「フィギュアスケート」48.2%、「高校野球」44.8%、「マラソン・駅伝」40.8%が入った。

性別にみると、男性は「サッカー日本代表試合(五輪代表含む)」が67.3%と最も高く、「プロ野球(NPB)」63.2%、「高校野球」51.4%と続く。女性は「フィギュア

スケート」が63.2%と最も高く、次いで「サッカー日本代表試合(五輪代表含む)」が60.7%、「プロ野球(NPB)」が40.6%であった。テレビ観戦率上位15種目のうち、女性よりも男性のテレビ観戦率が高い種目が多く、特に「格闘技(ボクシング、総合格闘技など)」(男性28.6%、女性8.3%)と「メジャーリーグ(アメリカ大リーグ)」(男性29.3%、女性11.0%)は男性が女性を約20ポイント近く上回る。一方で「フィギュアスケート」は男性33.0%に対して女性63.2%と、女性が30ポイント以上高い。また、「バレーボール日本女子代表試合(火の鳥NIPPON)」(男性15.7%、女性18.8%)も、男性よりも女性のテレビ観戦率が高かった。

【表4-5】テレビによる種目別スポーツ観戦率(全体・性別:複数回答)

全体 (n=3,000)			男性 (n=1,491)			女性 (n=1,509)		
順位	観戦種目	観戦率 (%)	順位	観戦種目	観戦率 (%)	順位	観戦種目	観戦率 (%)
1	サッカー日本代表試合(五輪代表含む)	64.0	1	サッカー日本代表試合(五輪代表含む)	67.3	1	フィギュアスケート	63.2
2	プロ野球(NPB)	51.8	2	プロ野球(NPB)	63.2	2	サッカー日本代表試合(五輪代表含む)	60.7
3	フィギュアスケート	48.2	3	高校野球	51.4	3	プロ野球(NPB)	40.6
4	高校野球	44.8	4	マラソン・駅伝	41.8	4	マラソン・駅伝	39.8
5	マラソン・駅伝	40.8	5	大相撲	39.9	5	高校野球	38.2
6	大相撲	35.7	6	フィギュアスケート	33.0	6	大相撲	31.5
7	プロテニス	29.8	7	プロテニス	31.3	7	プロテニス	28.4
8	メジャーリーグ(アメリカ大リーグ)	20.1	8	メジャーリーグ(アメリカ大リーグ)	29.3	8	バレーボール日本女子代表試合(火の鳥NIPPON)	18.8
9	Jリーグ(J1、J2、J3)	19.9	9	格闘技(ボクシング、総合格闘技など)	28.6	9	バレーボール日本代表試合(龍神NIPPON)	15.6
10	プロゴルフ	19.7	10	プロゴルフ	27.9	10	Jリーグ(J1、J2、J3)	12.9
11	格闘技(ボクシング、総合格闘技など)	18.4	11	Jリーグ(J1、J2、J3)	26.9	11	プロゴルフ	11.5
12	バレーボール日本女子代表試合(火の鳥NIPPON)	17.3	12	海外プロサッカー(欧州、南米など)	19.9	12	メジャーリーグ(アメリカ大リーグ)	11.0
13	バレーボール日本代表試合(龍神NIPPON)	14.5	13	サッカー日本女子代表試合(なでしこジャパン)	18.6	13	サッカー日本女子代表試合(なでしこジャパン)	8.9
14	サッカー日本女子代表試合(なでしこジャパン)	13.8	14	バレーボール日本女子代表試合(火の鳥NIPPON)	15.7	14	格闘技(ボクシング、総合格闘技など)	8.3
15	海外プロサッカー(欧州、南米など)	13.7		ラグビー	15.7	15	海外プロサッカー(欧州、南米など)	7.6
	テレビで観戦した種目はない	10.1		テレビで観戦した種目はない	8.5		テレビで観戦した種目はない	11.7

資料: 笹川スポーツ財団「スポーツライフに関する調査」2018

表4-6には、年代別のテレビ観戦種目を示した。70歳以上を除くすべての年代で「サッカー日本代表試合(五輪代表含む)」が1位であった。70歳以上では「プロ野球(NPB)」が63.1%と最も高い。2位には、18・19歳から40歳代までは「プロ野球(NPB)」、50歳代と60歳代では「フィギュアスケート」、70歳以上では「大相撲」が入った。

表4-7は、今後、テレビによるスポーツ観戦を希望する割合が高かった上位10種目を示している。「サッカー

日本代表試合(五輪代表含む)」が52.5%と最も高く、「プロ野球(NPB)」44.8%、「フィギュアスケート」41.6%、「高校野球」39.3%、「マラソン・駅伝」34.8%と続く。テレビ観戦希望率の上位10種目は、過去1年間にテレビ観戦した上位10種目と、種目、順位とも一致している。

さらに、テレビ観戦希望率を「継続観戦希望(リピーター)率」と「新規観戦希望率」に分けて算出すると、いずれの種目も新規観戦希望率より継続観戦希望(リピーター)率が高い特徴がある。

【表4-6】テレビによる種目別スポーツ観戦率(年代別:複数回答)

18・19歳 (n=71)			20歳代 (n=381)			30歳代 (n=480)			40歳代 (n=595)		
順位	観戦種目	観戦率 (%)	順位	観戦種目	観戦率 (%)	順位	観戦種目	観戦率 (%)	順位	観戦種目	観戦率 (%)
1	サッカー日本代表試合(五輪代表含む)	63.4	1	サッカー日本代表試合(五輪代表含む)	58.3	1	サッカー日本代表試合(五輪代表含む)	65.4	1	サッカー日本代表試合(五輪代表含む)	68.7
2	プロ野球(NPB)	45.1	2	プロ野球(NPB)	44.4	2	プロ野球(NPB)	41.5	2	プロ野球(NPB)	50.3
3	高校野球	42.3	3	フィギュアスケート	32.8	3	フィギュアスケート	37.7	3	フィギュアスケート	48.7
4	フィギュアスケート	31.0	4	高校野球	31.5	4	高校野球	33.8	4	高校野球	45.7
5	プロテニス	25.4	5	マラソン・駅伝	23.6	5	マラソン・駅伝	24.2	5	マラソン・駅伝	35.6

50歳代 (n=481)			60歳代 (n=564)			70歳以上 (n=428)		
順位	観戦種目	観戦率 (%)	順位	観戦種目	観戦率 (%)	順位	観戦種目	観戦率 (%)
1	サッカー日本代表試合(五輪代表含む)	65.5	1	サッカー日本代表試合(五輪代表含む)	67.4	1	プロ野球(NPB)	63.1
2	フィギュアスケート	55.5	2	フィギュアスケート	58.2	2	大相撲	61.7
3	プロ野球(NPB)	54.1	3	プロ野球(NPB)	57.8	3	マラソン・駅伝	56.3
4	マラソン・駅伝	48.2	4	マラソン・駅伝	56.7	4	高校野球	55.1
5	高校野球	48.0	5	大相撲	52.7	5	サッカー日本代表試合(五輪代表含む)	54.7

資料: 笹川スポーツ財団「スポーツライフに関する調査」2018

【表4-7】テレビによる種目別スポーツ観戦希望状況(複数回答:n=3,000)

順位	観戦種目	観戦希望率 (%)	観戦希望率		推計観戦希望人口(万人)	推計継続観戦希望(リピーター)人口(万人)	推計新規観戦希望人口(万人)
			継続観戦希望(リピーター)率 (%)	新規観戦希望率 (%)			
1	サッカー日本代表試合(五輪代表含む)	52.5	51.4	1.1	5,566	5,449	117
2	プロ野球(NPB)	44.8	43.7	1.1	4,749	4,633	117
3	フィギュアスケート	41.6	40.1	1.5	4,410	4,251	159
4	高校野球	39.3	38.0	1.3	4,166	4,028	138
5	マラソン・駅伝	34.8	33.6	1.1	3,689	3,562	117
6	大相撲	28.5	28.0	0.6	3,021	2,968	64
7	プロテニス	25.4	24.2	1.2	2,693	2,565	127
8	メジャーリーグ(アメリカ大リーグ)	19.8	17.5	2.3	2,099	1,855	244
9	Jリーグ(J1、J2、J3)	18.6	16.7	2.0	1,972	1,770	212
10	プロゴルフ	16.8	16.2	0.6	1,781	1,717	64

注) 推計観戦希望人口: 18歳以上人口の106,011,547人(2017年1月1日時点の住民基本台帳人口)に観戦希望率を乗じて算出。

資料: 笹川スポーツ財団「スポーツライフに関する調査」2018